

■（149）マンデラ氏死去で思い出す絵本の運命

南アフリカのネルソン・マンデラ元大統領が亡くなった。同国で340年以上続いた白人による人種隔離政策に抵抗する運動を指導。27年半の獄中生活を経て、同政策の撤廃を勝ち取った。昔話ではない。制度の完全撤廃が宣言されたのはわずか22年前だった。

訃報で思い出すのは、絵本「ちびくろサンボ」。黒人少年とトラにまつわる物語で、読み聞かせる母のお気に入りの一冊だった。欧米では当初、黒人のイメージ向上につながると推薦され、日本でも1950年代から広く読まれてきた。

だが、米国で一転、1970年代から人種差別につながると批判され、日本でも批判を受けた出版社が、1988年に本屋からすべて引き上げてしまった。南アの人種隔離政策への批判が国際的に高まっていた時期だった。その後、同政策撤廃で同国初の黒人大統領にマンデラ氏が就く。ちびくろサンボも再び書店に並ぶようになっている。絵本の扱いからも、世界の流れが透けて見える。

部落、外国人、男女……。残念ながら差別はなくなるらない。撤廃を訴える人らを新聞も後押ししたい。それでも、見過ごしや過ちが起きてしまう。記者の研修は常に欠かせない。
(山)